学び舎中学歴史教科書

授業づくり通信

2025年１月発行 第5号

5 病院が爆撃を受けて負傷したガザの住民／ガザ地区では2023年に戦闘が始まって7カ月で3万5千人以上が死亡した。

（学び舎教科書 2025 年度版 p269 より）

目　次

●授業に役立つ資料…人びとの姿からパレスチナ難民と占領を考える　山田 麗子　2-3

●執筆者が語る授業づくりの視点…被爆者の心を世界に伝える高校生　奥山　忍　4-5

●執筆者が語る授業づくりの視点…つくられたモンゴル観を揺さぶる　三橋 広夫　6-8

● 授業づくりのヒント…兵器のゆくえ　千葉　保　9-11

学 び 舎

授業に役立つ資料

（教科書 p268-269　10 章(11)パレスチナの平和）

人びとの姿からパレスチナ難民と占領を考える　山田 麗子

ガザへの苛烈な攻撃が止まりません。ユニセフは、2024 年 10 月、「ガザは、子どもたちの墓場と化している。人びとにとって生き地獄となっている」と訴えました。なぜこのようなことが起きているのか、歴史の授業では、1948 年の難民の発生について考えることが必要と思います。子どもが自ら感じ考えるためには人びとの姿を描いた資料が大切だと考え、デイル・ヤーシーン村の人びとをとりあげました。

1　1948 年、多くの難民が生まれた

1948 年 5 月イスラエル軍に村から集団追放されたパレスチナ人家族 https://www.aljazeera.net/midan/reality/politics

パレスチナの 90%はパレスチナ人の土地で、村や都市には人びとの生活がありました。しかし、1947 年 11 月、国連はパレスチナの 56%をユダヤ人国家に与える決議をします。当然、パレスチナ人と周囲のアラブ人の国々はこれに反対しました。

翌 1948 年 5 月、ユダヤ人国家イスラエルが建国を宣言しました。この前後にパレスチナの村々で、ユダヤ人武装組織による虐殺や強制追放が相次ぎました。当時パレスチナには、870 の村と都市がありましたが、そのうち 479 の村と都市が占領されました。家や建物を破壊して退去させた後、ユダヤ人家族が移り住んで農業や林業を始めました。

この時、住む家を追われて難民となったパレスチナ人は 70 万人以上になりました。その後も続く戦争で難民は増え続け、600 万人(2024 年 6 月)にもなっています。この人たちは隣国のヨルダン・シリア・レバノンと、パレスチナのガザ地区・ヨルダン川西岸地区の難民キャンプで生活しています。

難民の最大の願いは故郷に帰ることです。帰還する権利は、国際連合総会で「パレスチナ人民の不可譲の権利」として決議・宣言されていますが、イスラエルは交渉を拒否してきました。

2　デイル・ヤーシーン村の歴史と虐殺

イスラエル建国前の 1948 年 4 月、デイル・ヤーシーンという村で集団虐殺が起きました。村は破壊され、村人たちは追放されました。1985 年になって、村の生きた証が完全に消えてしまわないように、ヨルダン川西岸地区にあるビルゼイド大学が、生存者から聞き取り調査をし、本を出版しました。(1) 以下の村の歴史は、この調査によるものです。

デイル・ヤーシーン村は、トルコの支配に続き、1918 年からはイギリスに支配されます。1936 年にパレスチナの 6 政党がユダヤ移民停止を求めてゼネストを呼びかけた時、イギリスは大弾圧を加えました。これに抗して村の人たちもたたかいました。

村は、エルサレムから 6 ㎞西にありました。1948 年の人口は 750 人でした。ブドウやオリーブの栽培で有名でしたが、1920 年代に、村の土壌に建築資材に適した岩石があることがわかりました。

「土地から石油や金が出てきたようなものだよ」元村人は当時の活気を語ります。作業の効率を上げるために村は 4 台の堀削機を購入し、農業から建設業が中心になりました。トラックの運転手や、食料雑貨店、イギリス軍関係の仕事をする人もいました。1935 年には隣の村と共同で、バス会社を設立し、エルサレムとの間に 1 日 3 便を運行しました。

子どもの教育には関心が高く、1920 年代にイギリスが隣の村につくった公立学校に通わせた家も

ありましたが、当時は生活が厳しく続きませんでした。そこで 1940 年、男子小学校の建設を決めます。会議には村の全員が出席しました。村の共有地に建設することにし、寄付を集める委員会をつくりました。工事用の石材を寄付する人や、運動場の土地を寄付する人たちもいました。1943 年には、女子小学校を設立する組織がつくられ、祝いの式典を開きました。このように、村の人びとは、選ばれた村長のもとで結束し、協力して生活していました。

村は、移住してきたユダヤ人と友好的なことで知られていました。相互不可侵の取り決めをしていたからです。しかし、1948 年になるとユダヤ人側からの挑発が続き、村は武装するようになりました。

そして、4 月 9 日午前 2 時、ユダヤ人武装組織 120 人が四方から村を奇襲しました。東側からは大砲と戦車で攻撃してきました。当時 13 歳だったアブー・ヤ―シーンは、その夜をこう記憶しています。

「銃と大砲の音で目を覚ました。急いで兄と弟や妹たちを連れて逃げた。私はずっと妹をおんぶした。銃弾が雨みたいに降ってきて頭のすぐ上を飛んでいった。近くの村に続く道まで連れてきてくれて、兄と母は村に戻ったよ。学校の女の先生も『私の務めは村に戻ってケガをした人を助けることです』と言って戻っていった」

朝の 6 時まで村民との間で熾烈な戦いが続きましたが、午後には村の銃弾は尽きました。その後、ユダヤ人たちは住居に侵入し、人びとを集めて殺害しました。ファヒーマ・アリー・ムスタファ―・ザイダーンという女性がそのようすを語っています。

「私たちとおじの家族は納戸に隠れた。血を流している人もいた。3 時間くらい、みんな恐怖で気が狂いそうだったよ。奴らはドアを爆破し、私たちは外に出された。おじの家族はみな撃たれた。私の兄も撃たれ、兄に覆いかぶさった母も上から撃たれた。生き残ったのは 4 歳の妹と弟だけだった」「それから私たち女性をトラックに乗せ、ユダヤ人地区をいくつもまわり侮辱の言葉を浴びせた」

名前がわかっているだけで、子どもや女性を含む 107 人が殺害され、多くの人が負傷しました。

なぜ、ユダヤ人武装組織は友好的であったはずのデイル・ヤーシーン村を襲撃したのでしょうか。それは村の位置が、エルサレムを占領するために戦略上重要だったためと言われています。ユダヤ人武装組織は、自分たちの残虐行為を周辺に広めました。残忍な襲撃が起きたという知らせはパレスチナの村々に衝撃を与え、避難する村が急増しました。

デイル・ヤーシーン村の人たちを救援する動きが起き、孤児となった 5 歳以下の 55 人のために施設がつくられました。スィルワーンという村では、生存者のために車を出し、家々に受け入れました。しかし、このスィルワーン村もユダヤ人武装組織に攻撃され、人びとはまたも避難を強いられます。

事件のわずか 1 年後、イスラエル政府はデイル・ヤーシーン村の跡地を入植地に作り変えることを決定します。東欧からユダヤ人が移住してきました。

デイル・ヤーシーン村の人たちと子孫は、ヨルダンの難民キャンプと、ガザとヨルダン川西岸にある難民キャンプで生活しています。人びとの関係は強く、祝い事や儀式などの機会に集まっています。

3　軍事占領されたガザとヨルダン川西岸

1967 年、イスラエルは、第 3 次中東戦争に勝ち、ガザとヨルダン川西岸を占領して支配下におきました。ガザは 1990 年代後半から周囲と隔絶され、たった一つの検問所からしか出入りができないようになります。「天井のない監獄」とよばれるなか、イスラエルへの抵抗運動が激しくなりました。

さらに 2006 年のパレスチナ自治政府の総選挙で、ハマスが第一党となったことで、イスラエルはハマスを支持したことへの集団懲罰として検問所を原則閉じ、ガザを完全封鎖しました。イスラエルが見張っている海で漁ができず、農作物をつくっても売りに行けず、外からは物資が入ってこなくなりました。経済基盤は破壊され、失業者があふれました。

イスラエルはハマスが攻撃したことを理由に、2008 年からガザを空爆していますが、今回の爆撃でガザは壊滅的な打撃を受けています。パレスチナの人びとは国際社会に対して、パレスチナ問題の原点に立ちもどった解決を訴えています。

(1) 金城美幸「虐殺」の物語の奥行き ： シャリーフ・カナーアナ、ニハード・ザイターウィー著『デイル・ヤーシーン』(破壊されたパレスチナ村落シリーズ No.4)の解題と翻訳、東京大学東洋文化研究所、2017 年より要約

執筆者が語る授業づくりの視点

被爆者の心を世界に伝える高校生

活水中学校・高等学校　奥山 忍

― 微力だけど無力じゃない―被爆者の心を世界に伝える高校生 ―

1998年のインド・パキスタン核実験がきっかけとなり，長崎では，高校生平和大使を国連へ派遣することにした。その後，高校生自らが，核兵器廃絶をめざす「高校生１万人署名活動」を始め，各地の若者へ広がった。韓国では，在韓被爆者や被爆２世・３世，現地の高校生たちとともに，原爆写真展を開催し署名を集めている。「ミサイルよりもえんぴつを！」を合言葉に，アジアの子どもたちへ文房具を贈り，フィリピンの高校生との平和交流も始まった。各地で集めた署名は，毎年，高校生平和大使が国際連合軍縮局に届けている。

これらの継続した活動が認められ，2018年，ノーベル平和賞候補として推薦されることになった。新型コロナウイルス感染症が広がると，高校生たちは直接会うことができなくなったが，活動を途絶えさせてはならないという思いを共有し，オンラインで署名を集めた。ハワイで予定していた交流会議もオンラインで開催し，多くの若者たちが参加した。高校生たちは，「微力だけど無力じゃない」を胸に，核兵器廃絶と平和な世界の実現をめざし，未来を拓く活動を続けている。

教科書 p277

１　被爆者の心を世界に伝えたい

2024 年 10 月、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞。記者会見の席に高校生平和大使も同席していた。（右写真）高校生平和大使の国連派遣は 26 年、高校生一万人署名活動は 24 年を越える市民と高校生が続けてきた平和活動だ。

2017 年 7 月、核兵器禁止条約が国連加盟国 193 カ国中 122 カ国の賛成多数で採択。今のところ、核禁条約に不参加の日本だが、核兵器廃絶へ向け議論を進めてきたのは、広島・長崎の被爆者たちだ。被爆者の平均年齢は 85.58 歳（2024 年 3 月末）。被爆者なき時代が迫る。2017 年のノーベル平和賞をＩＣＡＮが受賞したことは、被爆者や核廃絶運動に連なる人々を勇気づけた。高校生平和大使の活動にも何度か「ノーベル平和賞」推薦の声が上がっていた。若い世代の平和活動として「高校生平和大使」がノーベル賞にノミネートされれば、知名度が低かったこの活動を知ってもらう機会になる、国内で停滞する核兵器廃絶運動や平和を進めることにつながる、そう考えた関係者が国会議員や有識者への働きかけを進め、2018 年からノルウェーへ高校生を派遣し、ノーベル平和賞にノミネートされたのだった。長崎で高校生一万人署名活動に参加し、その際に派遣された中村涼香さんは、大学進学後コロナ禍で「KNOW NUKES TOKYO」を立ち上げた。卒業後も同団体の代表として新しい形の平和活動に取り組む。2024 年 9 月、フランス訪問の際、ノーベル平和賞

ノーベル平和賞受賞を喜ぶ広島県被団協の箕牧智之理事長と高校生平和大使（朝日新聞 2024 年 10 月 12 日）

関係者から現在の被爆者の状況を聞かれ、高齢化の状況を説明。受賞に際し「中東情勢も緊迫し、核被害にあった人々の痛みや苦しみとも通じる。核兵器使用の脅威が高まっている今だからこそ、世界中の人が被爆者の声に耳を傾けないといけないと考えたのではないか」と語った。長崎で高校生１万人署名活動に参加する島田朱莉さんは「ノーベル賞の受賞を通じて、世界の人々に、被爆者がいること、核兵器が使われる脅威があることに関心を持ってもらいたい。活動の継続が平和実現の第一歩だと思う」と述べた。

２　世界に広がる高校生１万人署名活動

私は、長崎生まれでも長崎育ちでもなく、長崎の平和教育を受けた人間ではない。そんな私が爆心地から 500ｍにある学校に社会科教諭として採用され、偶然、1998 年に第１回高校生平和大使となった石

丸あゆみさんの担任となった。彼女は被爆者だった祖母の話を世界の人に伝えたいと考え、英語のスピーチで発表。それがきっかけとなり、第１回高校生平和大使となった石丸さんは、ＮＹの国連本部へ派遣され、国連国際学校の生徒たちに祖母の話を伝える機会を得た。その際、日本の戦争加害をどう思うかと問われ、日本の戦争加害について知らないことに彼女は気づかされた。日本の戦争加害を教えていなかったのは、当時、歴史を担当した私でもあった。戦後 50 年の 1995 年、私はフィリピンでのスタディツアーに参加し、日本の戦争加害を学んでいた。高校の日本史最初の授業で、教科書問題として南京大虐殺を知り、社会科教師をめざし、念願の教師になっていたのに。

高校生平和大使の活動をはじめた長崎の市民団体は、派遣以前からアジアでの原爆展を試みていた。日本の戦争によって犠牲となったアジアの人々は、原爆で日本の支配から解放された、と考える人が多くいた。日本人は加害者であり、韓国での原爆展開催は、簡単には実現できなかった。在韓被爆者は日本人と同じ被爆者とは言えず、日本人被爆者よりも一層苦しい状況に置かれ続けていた。それを知った長崎の被爆者や市民団体の人々は、韓国の被爆者たちとの信頼を一つずつ積み上げ、韓国での原爆展開催を実現した。その絆は、日韓両政府の関係悪化があっても途切れなかった。高校生平和大使と１万人署名活動の中にも生かされ、2003 年 6 月から日本の高校生が訪韓し交流活動を進めてきた。夏に韓国の高校生が広島と長崎を訪れ、共に原爆について学んだ。また、アフガン戦争が契機となり、アフガンや学用品が不足していたフィリピンの子ども達に学用品を集めて送る「高校生１万本えんぴつ運動」が行われ、フィリピンの高校生を広島・長崎に招待する交流活動につながった。「高校生平和大使」が訪問・交流したことがある地域・国は、欧州、アジア、アメリカ（南米含む）、オセアニアなど 20 を超え、国連や各国を訪問した高校生平和大使は約 200 人以上、活動に参加した若者は 2000 人を超えた。広島・長崎以外にも活動が広がった。コロナ禍での困難も高校生たちは「デジタル署名」などで乗り越え、オンラインでの署名を現在も継続。ＨＰからも参加できる。

若者には若者のスタイルがあり、原水禁運動は、様々な新しい形で次世代へ「継承」されている。

３　微力だけど無力じゃない

「日本被団協」のノーベル平和賞受賞理由には「日本の新しい世代」の活動についても述べられている。持続可能な未来へ向け、核兵器使用が人類の破滅をもたらすことを世界中の市民へ伝えることが「新しい世代」の使命だ、というようにも読め、受賞が新しい世代の活動を後押ししている。ゴールは、ノーベル平和賞の受賞でなく、核兵器廃絶と平和な未来の構築だ。そのために、核兵器廃絶を求める世界中の市民の声が、国際社会にとって重要なことは言うまでもない。世界を見れば、多くの若者たちが平和な未来と持続可能な世界のために行動を起こしている。世界には、多くの困難な問題があるが、若者が未来を切り拓いている。その姿を見て賛同者が増え、社会は徐々に動いている。

過去の歴史を学ぶことは遠回りに思えるかもしれないが、平和を創るために考え、知恵と勇気を得ることができる。中学生が近現代史で戦争について学ぶと、悲惨な事実に衝撃も受けるが、平和とは何か、他人事ではなく自分の問題として真摯に考える契機となる。平和のためにできることはたくさんある。自分だからできることが必ずある。普通の高校生たちが、あきらめずに取り組んできた平和活動を中学生に教科書で知ってもらうことも平和な未来へ繋がる第一歩になると思う。

あなたの力は「微力だけど無力じゃない」と生徒に気づいてもらえれば幸いだ。

署名活動を続ける高校生　2021 年 長崎
（平和活動センター提供）

【参考文献・資料】
『高校生平和大使にノーベル賞を　平和賞にノミネートされた理由』「高校生平和大使にノーベル賞を」刊行委員会編　長崎新聞社　2018 年
https://www.peacefulworld10000.com/「高校生１万人署名活動・高校生平和大使 」ＨＰ

執筆者が語る授業づくりの視点

つくられたモンゴル観を揺さぶる

三橋 広夫

3章(7)―つにつながるユーラシアーモンゴル帝国― (p68-69)

(7) 一つにつながるユーラシア ―モンゴル帝国―

クビライ＝カンはどんな国をつくろうとしたか。東アジアはどのように変わっていくのだろう。

■ ユーラシア大陸を横断する旅

1271年，マルコ＝ポーロは，父とおじに連れられて，ベネチアを出発しました。パミール高原やゴビ砂漠をこえ，3年半後に上都（元の夏の都）に到着しました。元の都市では道が石とレンガで舗装され，紙幣も発行されていることに驚きました。

マルコ＝ポーロは税をあつかう役人に任命されたり，使節となって元の南部や，遠くチャンパ（ベトナム）などを訪れたりしました。こうしてマルコ＝ポーロは，17年もクビライ＝カンに仕えました。何度も引きとめられましたが，1292年に泉州からイランに向かって出航することができました。ベネチアにもどったのは1295年でした。

この後，モンゴル帝国とヨーロッパ諸国の間で，外交使節がさかんに行き来しました。

■ さかんになる東西交易

モンゴル高原の遊牧民を統一し，ユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国の基礎をつくったのは，チンギス＝カンでした。その孫，クビライは中国に侵入し，1271年に国号を元とします。クビライは26年を費やして大都を建設し，大都と各地を結ぶ交通網を整備しました。

また，西アジアで商業活動をしていたムスリム（イスラム教徒）の商人たちを，高い地位につけて，東西交易の拡大をはかりました。それまで交通の要所・都市・港湾などを通るたびにかけられていた通行税を廃止し，わずかな売上税だけを納めればよいとしました。こうして商業活動がさかんになり，元の財政も豊かになりました。

元は，大都を中心に，中国の南北をつなぐ航路を整備し，海上交易もさかんにしました。また，イラン産のコバルトを使って，あざやかな青色の磁器（染付）をつくり出し，西アジアに輸出しました。

■ モンゴル帝国と東アジア

朝貢を求めるモンゴル帝国の要求を，高麗は何回も拒んでいました。1232年には，高麗は，都を開城から江華島にうつして抵抗しました。40年以上の戦いのの ち，元の支配下に入りました。高麗の皇太子が元の王女と結婚するなど，両国の関係も深まりました。

高麗を支配下においたのち，元のクビライ＝カンは，日本に使いを送って通交を求めました。朝廷・幕府からの返事がなかったこともあって，1274年，元はおよそ3万の兵力で対馬・壱岐（長崎県）をおそい，九州北部の博多湾（福岡県）に攻め入ったあと，引きあげました。

元は，南宋を滅ぼしたあと，1281年，ふたたび日本を侵略しようと，およそ15万の兵力を送りました。一方，幕府は，御家人やそのほかの武士も動員して警備にあたらせ，上陸が予想された博多湾一帯には防塁を築きました。そのため，元軍は上陸できませんでした。さらに，暴風雨によって，たくさんの船が沈み，元軍は引きあげました。

これらの戦争にもかかわらず，幕府は交易船を元に派遣し，クビライ＝カンも交易を許可しています。

― 元を攻撃したカラフト（サハリン）のアイヌ ―

カラフトに進出したアイヌは，13世紀後半，40年以上，元との戦いをくり返した。カラフトで独自の文化をもつ先住民（ギリヤーク人といわれる）が，アイヌに攻撃されていると訴えたため，元は数千の軍勢で攻め込んだ。1297年には，アイヌが，逆に海をこえて大陸に攻め入り，元と戦った。しかし，その後，アイヌは元に，毎年，めずらしい毛皮などの貢ぎ物を贈るという条件で，和平を結んだ。

068

通交を求めたクビライ＝カンの国書

朝貢

068

1 「クビライ＝カンの国書」は中学生のモンゴル観を揺さぶる

授業中に「国書」(1)を読んで、意見を出し合った。ある子どもはこう発言した。「日本が高麗と接していたからってモンゴルに従わなければならない理由はない。その高麗だって30年も元と戦っている。フビライも命令みたいな言い方をしている。それなら、死ぬ気で戦うべきだ。最初はこう思ったが、みんなの意見を聞いて変わった。朝貢すれば利益は莫大だ。新しい物や文化がどんどん入ってくるし、もし国が危なくなっても元が助けてくれるので、やはり元に従うべきだと思った」

逆のベクトルの変化もある。「フビライは『兵を用いるような事態になることはどちらにとっても、好ましいことではない』と言っているので戦う必要はない。戦えばどちらの国民にも被害が及ぶので交渉すればいいと最初は思った。だけど、みんなの意見を聞いて考えが変わった。もしこのとき日本が従ったとしたら、おとなしすぎる。私は元が嫌いだ。そう思うとさっきのフビライの手紙もうそのように思えてくる」

ここから、子どもたちの中には二つのモンゴル観が内在していることがわかる。そして、そのモンゴル観の間で揺れている。討論は、異なる意見を別々の子どもが主張しているが、同時に子ども一人ひとりが自分の中の異なった意見によって葛藤しているとも見ることができる。したがって、どのような教科書の記述（事実の提示）が子どもたちのモンゴル観を揺さぶり、意見交換を通してより豊かな世界認識を獲得できるか検討されるべきであろう。

２　身近に感じ、深く考えられる教材

マルコ＝ポーロは子どもたちにとってはなじみのある教材といえるだろう。父と叔父に連れられてマルコがアジアに向けて旅立ち、西アジアから元はもちろん東南アジアやインドまでの、その豊かな情報は 13～14 世紀の各地のようすを伝えてくれる。それが『東方見聞録』(『世界の記述』とも) である。一行がベネチアを発ったのが 1270 年だったから、マルコが 16 歳のときである。このことからも『東方見聞録』の記述が子どもたちにとって身近な存在としてせまってくる。

『東方見聞録』はジパングなどの記述に目が行きがちだが、元の実情を理解するにも適している。カンや皇族を昼夜護衛した親衛隊であるケシクについて具体的に記述されている。「非番であっても昼間は宮殿で待機し、夜間は帰宅する。ただしクビライから命令があればこのかぎりではない」などは関係者以外では知りえないことではないかという（海老澤哲雄『マルコ・ポーロ』)。

ケシクという組織の存在は、当時の元と高麗の関係を考えるうえで重要な要素の一つである。従来、高麗王子が元の宮廷にとめおかれたことをもって高麗の服属を担保するための人質という表面的な理解に留まっていた。しかし、後に高麗王となる人々がケシクに参入することによって元の中央政界に進出し、そのことで高麗王権の中で力を持っていったことが確認されている（森平雅彦『モンゴル覇権下の高麗』)。

さらに、高麗人のなかには元帝国で活動した者も多く、「男子に生まれたら皇帝の都で出世しなくては」という考えが高麗官吏のあいだで広まっていた。元と高麗の交流が活発になり、棉花が高麗にもたらされ、高麗人の生活様式を変化させていった（歴史教育者協議会・全国歴史教師の会編『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編・上』)。

長々と書いたのは、子どもたちは、クビライの要求を受け入れたらどうなるかを考える際に、抽象的に「従う」とか、「服属する」としか思いつかない。ここで、元に「服属していた」高麗の実像を示すことによって、自分の意見をはっきりさせることができるであろう。

さらに、図版1、3の紙幣、パイザなどは、子どもたちが元の経済のしくみにまで迫ることができる教材である。

３　多様な日元関係

教科書には「これらの戦争にもかかわらず、幕府は交易船を元に派遣し、クビライ＝カンも交易を許可しています」と記述されている。このことは、当時の日元関係を考える際には、欠かせない事実であろう。具体的には、クビライは1277年、中国に来た日本の商人に金と銅銭との交易を許し、翌78年には日本商船に貿易を許容せよとの詔諭を沿海の官司に下し、79年には日本商船４艘・船頭2000人あまりが慶元港に来て貿易を営んでいる（南基鶴『蒙古襲来と鎌倉幕府』)。

この事実は子どもたちの思考の範囲を越える。戦争をしている相手を訪れるばかりか、貿易までしようというのだから、子どもの言葉で言うと「うっそー」となる。ここまで来ると子どもたちは自分の知っていること、教科書の記述などを総動員して説明しようとする。今まで考えてきたことでは説明がつかないからである。子どもたちは資料（「元史」より）の中の「（日本は）その後何度も来航を求めた」ことに注目して「（日本は元と）仲の良い関係をつくろうとしている。元にもう来ないで、戦争をしないで、という感じだった」と考えた。(2)

クビライは日本や東南アジア諸国との貿易を積極的に振興する意図を持っていた。もちろん、貿易の利益のみを目的としたものではなく、海外諸国招致の手段だった。

二度にわたる「モンゴルの襲来」が侵略戦争であったことはまちがいない。しかし、この戦争に特化して日元関係を扱えば、結局過去のモンゴル帝国との関係を自国史の中に押し込め、あるいは自国史からのみ叙述することによって、そのナショナル・アイデンティティを強固にしようとする傾向を強めることになる。そして、そこには文明と野蛮という二項対立を内実化させる働きがある。

クビライの死後、元は1299年一山一寧（渡日後一時幽閉されたが、建長寺の住持となった）を日本に派遣した。これ以後、日元両国ともに交易体制の確立をめざし、その結果貿易が盛況を迎えた。この一山一寧に師事したのが雪村友梅（せっそんゆうばい）で、彼は元に渡って20年以上滞在し修行に励んだ。このことから、「モンゴルの襲来」を前後して人的交流もかなり盛んだ

ったことがわかる（今谷明『元朝・中国渡航記』）。

さらに、日宋貿易や日元貿易を担った商人はどういう人たちだったのだろうか。11世紀末ごろから博多には「大唐街」と呼ばれる中国人街が形成されていた。日本と南宋の貿易を主に担ったのは、ここに住む「博多綱首（ごうしゅ）」あるいは「博多船頭」と呼ばれる中国人だった―ただし、彼らが近代以後の「中国人」というアイデンティティーを持っていることを意味しない。便宜上そう表現するにすぎない―が、日本最初の禅寺であった博多の聖福寺などの建立に重要な役割を果たし、神人（じにん）などの地位も得ている。

その「博多綱首」が13世紀半ばに史料に現れなくなることから、従来は日本人商人の台頭を想定していたが、天竜寺船などの寺社造営料唐船の運行には博多の海商、すなわち「博多綱首」の後身があたっていたと考えられている（大庭康時「国際都市博多」）。

つまり、モンゴル軍が攻め入ってきた当時の博多は、中国人が主要な役割を果たしていた都市であり、その事実は野蛮なモンゴルと文明の日本という認識を崩す可能性を持っている。それだけ歴史は複合的であり、広がりを持っているといえる。

４　新安（シナン）沖の沈没船が意味すること

さらに、1975年に韓国の新安沖で発見された沈没船について考えてみよう。この船には陶磁器２万点以上、銅銭28.1トン、紫檀木千本など大量の商品が積まれていたことがわかっている。この船は、1323年、中国の寧波を出航し、日本の博多に向かう途中、嵐のために朝鮮半島南西部の海岸に漂流・沈没した。「東福寺」と書かれた木簡もあったことから東福寺の寺社造営料唐船であったと推定されている。また、「綱司」と書かれた木簡も「博多綱首」をにおわせる。そうであれば、日元貿易を担っていたのも「博多綱首」となる（佐伯弘次『モンゴル襲来の衝撃』）。

この事実をはたして「モンゴル襲来」後のできごととしてとらえていいのだろうか。年表上はそうだろう。しかし、寺社造営料唐船を送った当時の人びとの意識を考えるとそう単純ではない。

最初は九州の御家人に、そして「弘安の役」の後、東国の御家人にも課せられるようになった軍役に異国警固番役がある。これは御家人たちにかなり負担をしいた。そのため、九州には年貢が免除されて荘園領主に上納されなくなった荘園があるほどである。鎮西探題が設置されるとその傾向はさらに強まった。この軍役が、実質的な意味を失うのは鎌倉幕府の滅亡後である。つまり、それまでは、少なくとも九州の御家人にとって戦争は続いていると見るべきであり、そうした時代状況をふまえて寺社造営料唐船の持つ意味を考えることが必要だろう。

また、元の時代は「日中韓の三国において、国境をこえた共通の出版・学術・文化状態が出現した」大交流の時代だったとも言われる（杉山正明「モンゴル時代のアフロ・ユーラシアと日本」『モンゴルの襲来』吉川弘文館）。実際に、1227 年から 1364 年までのおよそ 140 年間に日元間の往来船は 57 隻に及ぶ。平均すると２～３年に１隻の船が日本から元へ、あるいは元から日本へと船が行き来していたのである（魏栄吉『元・日関係史の研究』）。

いずれにせよ、教師の説明で事たれりとする授業では、子どもたちの認識は深まらない。１冊の絵本を紹介したい。ビエロ・ベントゥーラ絵／ジアン・パオロ・チェゼラーニ文『マルコ・ポーロの冒険』。ぜひ読み聞かせたい。(3)

【 注 】

(1) クビライの国書は当時のモンゴル帝国の標準の書き方によって書かれ、末尾近くは威嚇の言葉を入れることになっている。したがって「兵を用いるに至るは、夫れたれか好む所ぞ」という一節をその後の開戦に引きつけて考えるのは拡大解釈だという（堤一昭「モンゴル帝国と中国―コミュニケーションと地域概念」『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会）。

(2) 詳しくは、三橋広夫「中学生と学ぶ『モンゴルの襲来』の授業」（『歴史地理教育』2009 年 10 月号）を参照。

(3)

評論社 1980 年

兵器のゆくえ

千葉　保

ロシアがウクライナへ侵攻し、3年近くたった現在も戦闘が続いています。また中東のガザなどではイスラエルの攻撃が続いています。今、世界は「戦争の世紀」に舞い戻った様相を呈しているようです。戦争には「兵器」が必要となります。「兵器」について歴史をふり返ってみましょう。

1　第一次世界大戦から見えてくること

イギリス製の戦車・マーク1

第一次世界大戦では多くの「兵器」が開発され登場しています。上の写真は当時登場した「戦車」です。どうしてこんな細長い形をしているのでしょうか。あなたは次のどれだと思いますか？

① 背の低い戦車の方が敵の弾丸に当たりにくい
② 細長くて兵士が多く乗せられるから
③ スピードの出やすい形だから
④ その他

答えは、「塹壕」を乗り越えるための目的でした。この戦いは互いに塹壕を掘って対峙する戦いになったのでした。その結果、塹壕の長さは数百kmにも延び、地中海までつながったといいます。

この戦争は1914年7月28日から1918年11月11日まで続きました。連合国（イギリス帝国・フランス共和国・ロシア帝国・イタリア帝国・大日本帝国・アメリカ合衆国）vs. 中央同盟国（ドイツ帝国・オーストリア＝ハンガリー帝国・オスマン帝国・ブルガリア王国）の両陣営で戦われた大規模な戦争でした。戦いが始まった理由は、オーストリア皇太子夫妻がサラエボでセルビアの青年に暗殺されたという事件がきっかけでした。

各国政府および君主は開戦を避けるため力を尽くしましたが、戦争の連鎖的発動を止めることができず、両軍合わせて25カ国が参戦しました。
この時に、「戦車」「飛行機から手投げ爆弾」「毒ガス」などの「兵器」が登場しています。

さて、「戦車」は国と国の戦争のためにだけ使用されたのでしょうか？

① もちろん、国と国の戦争で使う
② いや国内が二つに割れて戦う時も使うと思う
③ 他国に一方的に押し入るときも使うかも
④ その他

では「戦車」が国と国の戦闘以外に使われた歴史を見てみましょう。

2　プラハでの「戦車」

国旗を掲げるプラハの市民

チェコスロバキアの首都プラハではこんなことが起きました。1968年8月20日、ソビエト連邦の戦車が突然侵攻してきたのです。ソ連はワルシャワ条約機構の50万人規模の軍隊と戦車を送り込み、プラハを占領しました。ソ連軍に加えて、ポーランド軍・ブルガリア軍・ハンガリー軍も侵攻に加わったのでした。なぜ侵攻したのでしょうか？

これは「プラハの春」と呼ばれるようになったチェコスロバキアの社会主義改革で、ドゥプチェク

共産党第一書記が行った新しい改革政策を打ち壊そうとする干渉でした。ドゥプチェクの改革は、報道の自由や言論の自由を認め、また自国民の旅行に対する制限の緩和も含まれたもので、当時の社会主義国としては画期的な改革で、国民に絶大な支持を受けました。今まで新聞などの言論の検閲をし、政権に都合の悪い報道を許さないことを常としていた社会主義国では、検閲廃止は大きな意味を有しました。今まで行ってきた権力者の恣意的な政策が否定されてしまうのです。

特に行政権限の地方分権化に対してもソ連は苦々しく思っており、交渉を重ねるも失敗に終わったのです。その結果の侵攻でした。この侵攻に対しチェコスロバキアの軍隊は戦いませんでした。その結果、朝までにプラハはソ連軍に占領されてしまったのです。プラハ市民は武器を取らず、「兵器」ではなく「言葉での戦い」を開始しました。

「なぜ隣の友好国に戦車でやってきたの」

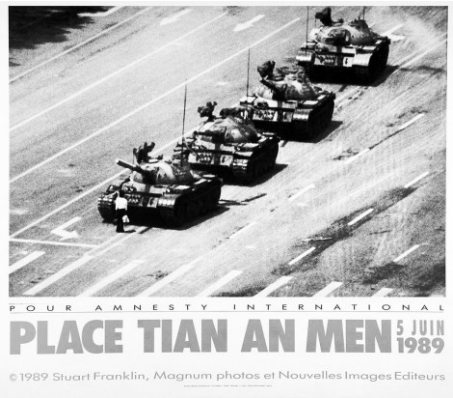
「友だちではなかったの」

「私たちはあなたの国を攻めたりしないわ」

民衆から問い続けられるロシア兵は困惑しました。命令で招集されて目的も知らずやってきただけなので、何も応えられませんでした。兵士たちは肩身が狭くて下を向きました。その夜のうちに、プラハ市民はプラハの道路標識を全て「モスクワまで何百 km」と全て矢印付きで表示し直しました。プラハ市民の怒りの行動でした。道の表示がないとソ連兵は今いる場所もわかりません。「戦車」は友好国を侵略し、困らせたりするのにも使用されたのです。

３　北京での「戦車」

リベラル派で親日家だった胡耀邦元総書記が 1989 年 4 月 15 日に心筋梗塞で亡くなりました。胡耀邦を悼むために学生や市民たちが天安門広場に集まってきました。そして彼らの声は、悼みから中国の民主化を求める要求へと変わっていったのでした。当時の中国のリーダーは趙紫陽総書記と保守派の李鵬首相と彼を抜擢した鄧小平でした。共産党は当初、この運動を黙認していましたが、4 月 25 日に鄧小平がこの学生の運動を「計画的な陰謀で動乱だ」と認定しました。そして、6 月 4 日未明に人民



© Amnesty International France / Photograph © Stuart Franklin

解放軍が武力鎮圧に踏み切ったのです。戒厳部隊は学生や市民に発砲し武力による鎮圧に出ました。この事件は第二次天安門事件と呼ばれています。

「戦車」は市民を圧殺したのです。事件後の中国当局の発表は 319 人の死者が出たというものでした。しかし、イギリスが 2017 年に公開した外交文書では、当時の駐イギリス大使が死者数を「少なくとも 1 万人」と本国に報告しています。天安門広場は、こうして「戦車」に埋まったのでした。

４　「戦車」の最後は

次に「戦車」の最後を考えましょう。古くなった「戦車」はどうする？

① 鉄クズ屋に売る

② 全部、溶かしてしまう

③ 紛争国に売る

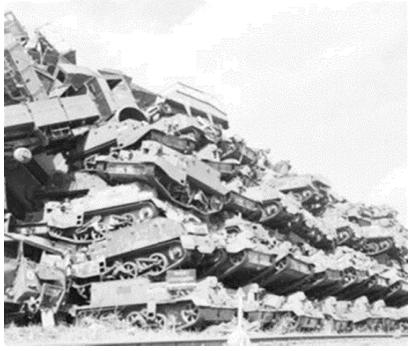
④ 捨てる

⑤ その他

「紛争国に売るってありそう、これだと少しはお金が入るよ」「次に使うために保管しておくのでは」

写真は捨てられた「戦車」です。たくさんの「戦車」が戦い後に捨てられていますね。

エリトリアのアスマラの戦車墓地にある廃軍用戦車



これはイギリスの古くなった「戦車」です。一カ所に積み上げられていますね。「戦車」の墓場とも言えるかもしれません。

クウェートのフェラカ島に捨てられた戦車

フェラカ島には、湾岸戦争の時に使用された「戦車や装甲車」などが捨てられています。

ロシアの錆びついた戦車

「兵器」の最後は積み上げられて保管されるか、廃棄されるようです。戦闘機や爆撃機もそうです。

飛行機の墓場と言われるアメリカのデビスモンサン基地

アフガニスタンの「飛行機の墓場」に着陸する米軍機

戦闘機も使用が終わると捨てられていますね。「兵器」を捨てるとは、購入のために使用されたその国の税金を捨てることにもなります。「兵器」の最後は無残なものでしたね。「兵器」は巨額の国家予算で造られたり、買われたりしたものです。このお金がその国の平和づくりのために使われたら、その国の民はもっと幸せになったかもしれません。「兵器」を見つめてきて、そんな思いが深くなりました。

ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)の発表によると 2023 年の世界全体における軍事費総額は 2 兆 4434 億米ドル*でした。その 4 割近くはアメリカ合衆国で、次いで多いのは中国です。アメリカと中国が頭ひとつ抜けた印象です。日本が 10 位に入っています。

【「世界軍事費」トップ 10】
1 位「米国」9160 億米ドル
2 位「中国」2964 億米ドル*
3 位「ロシア」1095 億米ドル*
4 位「インド」836 億米ドル
5 位「サウジアラビア」758 億米ドル*
6 位「イギリス」749 億米ドル
7 位「ドイツ」668 億米ドル
8 位「ウクライナ」648 億米ドル
9 位「フランス」613 億米ドル
10 位「日本」502 億米ドル
(出所：SIPRI 2023 年　*は推定値)

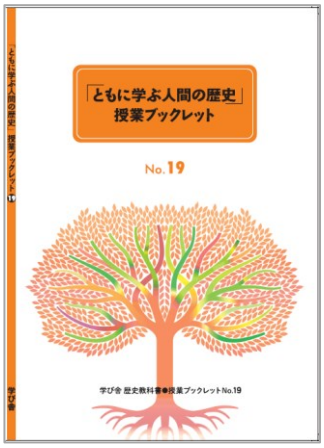
兵器は人類を幸せにするものなのでしょうか？みなさんはどう考えますか。みなさんで討論してくれるとうれしいです。

多様な授業の可能性を広げる・歴史への興味が深まる・人びとの姿が見える

学び舎『ともに学ぶ人間の歴史』授業ブックレット

学び舎では、教科書の授業実践や図版についての詳しい論考、本文の内容についての深い解説や発展的な論考などを、ブックレットとして年３回発行しています。（定価７００円＋税）

No.19 2024年11月発行 最新号



1 水城　―古代日本の巨大防衛施設―　舟山　良一
（第２章（１）ゆれる東アジアのなかで）

2 火山列島を倭国神話から考える―神話と歴史の研究・教育―
（第２章（４）シルクロードの贈り物）　保立　道久

3 街から家庭から、金属類が消えた日 すべては戦争のためでした
（第９章（10）赤紙が来た）　古橋　研一

4 小坪砲台爆発事故の謎にせまる　中澤　洋
（第９章（15）本土決戦か、降伏か）

No.18 2024年7月発行

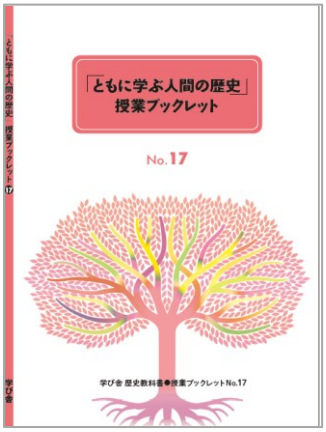
1 江戸の町の暮らし　東海林次男
（第５章（７）裏長屋に住む棒手振）

2『ともに学ぶ人間の歴史』と唱歌「蛍の光」　大日方純夫
（第８章（４）国語をつくる）

3「アヘンを処分する」「清華学校運動場」図版の背景を読み解く
（第６章（５）アヘンを持ち込むな・第８章（８）21 カ条は認めない）
土屋　紀義

4 さまざまな階級の視点で考え、学び合うフランス革命の授業
（第６章（２）バスチーユを攻撃せよ）　米山　宏史

No.17 2024年4月発行



1 子どもたちの図版からはじまる歴史の授業　楢崎　由美
（第１章（７）湖にゾウを追う）

2 訴訟する百姓たち　山田　麗子
（第５章（８）地鳴り山鳴り、のぼりを立て）

3 女性と自由民権運動　鳥塚　義和
（第７章（５）国会を開こう）

4「独立マンセー（万歳）」の授業をつくる　三橋　広夫
（第８章(10) 独立マンセー）

バックナンバーは学び舎 HP（manabisha.com）をご覧ください。
ご購読の申し込みは学び舎メールアドレス：manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp へ。